

I 協働のまちづくりが必要になってきました

津島市には多くの文化遺産が先人から受け継がれており、これを継承してきた人々の想いと地域のつながりが強いまちです。今でも、地域や町内会を中心に、尾張津島天王祭や秋まつりといった、まさに地域コミュニティの原点である催しが毎年盛大に開催されています。

こういった素晴らしい文化や人材（人財）がそろった津島市においても、核家族世帯の増加・子育て支援・高齢者の見守り・防犯・防災・環境問題など様々な課題が生じてきています。かつての向こう三軒両隣で助けあい、支えあってきた「地域の力」が改めて見直されています。

地域の困りごとに関心を持ち、できることから行動してくださる市民をもっと増やすために、リーダー的な人材を確保し、そして育てていくことが望まれます。

市民一人ひとりが、まちの課題を自分のこととして考え、お互いの知恵と力を活かし協力していくことが、協働の第一歩なのです。



Ⅱ 協働のまちの姿

「津島市地域コミュニティに関するアンケート調査（平成23年実施）」で、住民同士の信頼感や助け合い意識を高めるためには、どのようなきっかけがあれば効果的だと思うか尋ねました。

「ふだんからあいさつや声かけをする」が70.4%と最も多く、「行事やサークル、懇親会等、身近な交流や親睦の機会がある」が31.2%にのびりました。

そこで、津島市が次のような姿になることを目指し、市民・地域コミュニティ団体・市民活動団体・事業者・行政などが、協働してまちづくりを進めます。

このような津島市になることを目指します！

①地域の課題を「自分ごと」と考える市民が増える

小さなことでもできることから行動し、地域で助け合いが行われています。



②地域コミュニティ活動が楽しくなる

町内会や小学校区コミュニティ活動に参加することが、楽しくなっています。



③活動する人の輪が広まり、地域への関心が高まっている

まちづくり活動をする人、協力する人の輪が広まり、地域への関心や郷土を愛する気持ちが高まっています。



④地域の課題について話し合える場がある

町内会、小学校区コミュニティ推進協議会、市民活動団体など、いろいろな人が気軽に集まり、話し合う場があることで、問題解決が進みます。



⑤まちづくりの主体同士が協働する

地域コミュニティ団体が、防災・子育て・地域福祉などの活動を進めるときに、他の団体からの助言と協力が得られるなど、様々な団体同士の協働が生まれています。

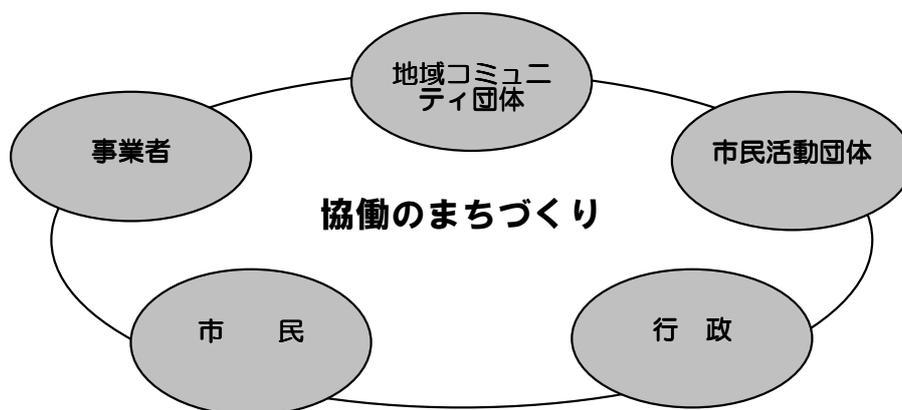


Ⅲ 協働のまちづくりの主体

津島市は、町内会をはじめ小学校区コミュニティ推進協議会、NPO 法人、ボランティア団体など、様々な団体が「まちづくり」に取り組んでいます。

協働のまちづくりに取り組む主体としては、市民、地域コミュニティ団体、市民活動団体、事業者、行政などがあります。

これらの人や組織が主体的に行動し、さまざまな知恵や経験を活かし、お互いの特性や能力を出し合うことで、相乗効果が生まれ、輪が広がります。

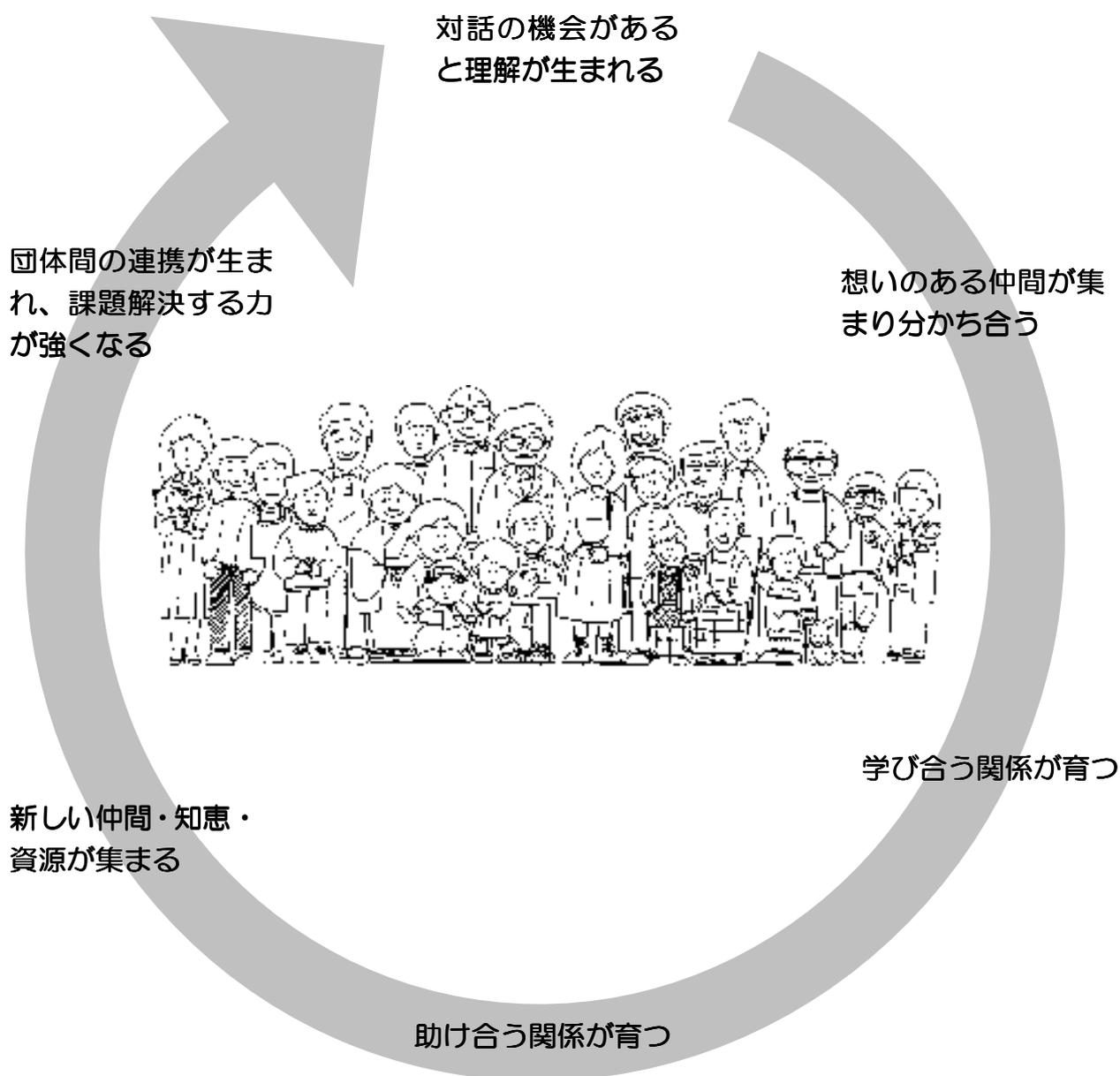


- 市民** 市内に住んでいる人、通勤・通学している人、市内で社会・経済的な活動をしている人を指します。
- 地域コミュニティ団体** 町内会・子ども会・老人クラブなど、地域で生活することを縁とし、日常的なつながりを持って活動している組織を指します。
- 市民活動団体** 特定非営利活動法人（NPO法人）、任意団体（法人格を持たないNPO、ボランティア団体、文化芸術やスポーツの活動を行う団体）など、特定のテーマに対する共感によってつながりを持つ組織を指します。
- 事業者** 企業、商店、商工会議所、青年会議所などを指します。
- 行政** 市役所を指します。

IV 5つの重点課題への取組み

まちづくりは、対話を始めることから、さまざまな立場の人や組織の理解が生まれ、想いを分かち合い・学び合い・助け合いへと発展します。新たな仲間・知恵・資源が集まって協力関係が熟成し、まちづくりの力となっていきます。

協働のまちづくりが育まれるサイクル



このような地域の人々の自立的な活動を支えるため、次の5つを重点課題とします。

① 情報の共有と団体同士の交流

市民活動情報を共有し、参加につながる仕組みをつくる

- (1) 協働を育む機会づくり
- (2) 団体間のネットワーク形成
- (3) 参加につながる情報の発信

② 人材（人財）の発見と育成

地域の人材（人財）を発見し、活用できる仕組みをつくる

- (1) 協働コーディネーターの育成
- (2) まちづくりに参加する心の育成

③ 活動・交流する場の確保

市民が出会い、活動が生まれる場をつくる

- (1) 使いやすい施設運営
- (2) 身近な施設の活用

④ 資金力の向上

活動を支える資金を生み出す仕組みをつくる

- (1) 既存の財政支援の枠組みの整理
- (2) 市民活動を支援する仕組みづくり

⑤ 行政の変革

地域力と行政施策の連動を生み出す仕組みをつくる

- (1) 協働事業の仕組みづくり
- (2) 問題意識を深める機会づくり
- (3) 市職員の協働意識の向上

① 情報の共有と団体同士の交流

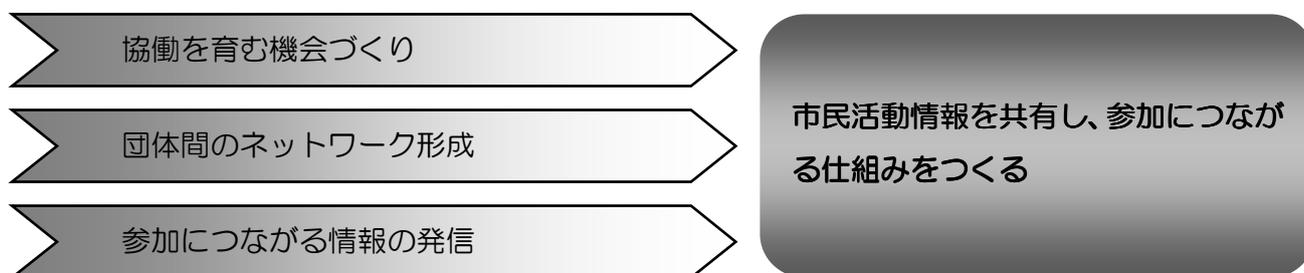
市民活動に関する情報を広く提供する。そこから市民の理解が広がり、市民活動の裾野が広がります。

どのような市民活動団体があり、どのような活動をしているのかを紹介する。そこから関心のある市民がつながります。

市民活動の知恵が蓄積され、活用されれば、人を巻き込み、行動を生み出す次の活動に役立ちます。

そのために、市民活動団体などが情報を発信できる環境を整備し、イベント情報など、さまざまな活動に関連する情報を提供していきます。

お互いの活動内容を紹介できるように、様々な活動団体が出会い、交流する機会を設けます。そこから地域の問題を一緒に考え、お互いの強みを活かした協力関係が生まれます。



(1) 協働を育む機会をつくります。

多様な団体が出会い、理解し合い、連携できるようにきっかけとなる交流や相互理解などの機会を設けます。

(例：各種団体交流会の開催)

(2) 団体間のネットワーク形成を支援します。

① 地域コミュニティ団体同士、市民活動団体同士の情報交換や研修の機会などを通じて、悩み事や解決方法などを共有する関係をつくります。

(例：地域コミュニティ団体情報交換会の開催、市民活動団体情報交換会の開催)

② 町内会が抱えている様々な課題について、町内会代表と意見交換をしながら、嘱託員制度、助成金、加入促進策などについて検討します。

(例：町内会活性化検討会の開催)

(3) 参加につながる情報を発信します。

地域活動やボランティア活動などに参加したい、貢献したいという市民の想いが行動に結びつくように情報を集約して発信します。

(例：市民活動団体情報誌の発行、市民活動情報サイトの開設、公共・商業施設に情報コーナーの設置)

～それぞれに期待される役割～

- **市民** 地域でどのような活動をしているか、どのような課題があるか情報を収集しましょう。
- **地域コミュニティ団体** 防災・防犯・交通安全活動、地域イベントなど、地域の情報をちらしやケーブルテレビなどで発信をしていきましょう。また、地域の様々な生活課題について意見を交換し、テーマ別の市民活動団体などとも協力しましょう。
- **市民活動団体** 市民活動団体の活動について、広く情報発信をしましょう。また、地域コミュニティ団体など、さまざまな組織と連携・協力した活動をしましょう。
- **事業者** 事業所の掲示板・食堂・ホームページなども効果的な情報拠点です。従業員が地域活動に参加することを応援しましょう。また、地域コミュニティ団体や市民活動団体などと連携し、地域に根付いた社会貢献活動をしましょう。
- **行政** まちづくり活動に役立つ情報（市民活動団体情報誌の発行、市民活動情報サイトの開設など）を提供します。また、地域コミュニティ団体・市民活動団体・事業者など、異なる組織同士が意見交換する機会（各種団体交流会の開催）をつくります。

先進事例

市民活動情報サイトの開設

（半田市の取り組み）

半田市では、様々な市民活動情報や関連情報を一箇所に集め、市民活動団体、行政、その他関係機関がネットワーク化されています。

活動団体は、ホームページをもつことができ、自分たちの活動情報をタイムリーに発信できます。

市民もこのサイトから活動情報を取得でき、掲示板などを通して、情報をやりとりしたり参加することができます。

半田にこんな活動あったんだ!
地域の活動と出会うサイトができました。

地域活動情報サイト はんだ まちひろネット

http://machihiro.net/

「はんだまちひろネット」は、半田市内のイベントや講座、通達の件数づくり、ボランティア情報など、生活に役立つ情報が満載の地域情報サイトです。

4月1日
オープン!!

はんだまちひろネットの情報配信-概要イメージ-

1. 市民活動団体・行政・事業者が、自分たちの活動情報をタイムリーに発信できる。

2. 市民もこのサイトから活動情報を取得でき、掲示板などを通して、情報をやりとりしたり参加することができます。

スポーツ、暮らし、防災、健康など、気になるジャンルの情報をチェック!

お知らせ
・市民活動団体、行政、事業者が、自分たちの活動情報をタイムリーに発信できる。
・市民もこのサイトから活動情報を取得でき、掲示板などを通して、情報をやりとりしたり参加することができます。

お問い合わせ
TEL 0569-32-3430 FAX 0569-32-3447
E-mail: k-kyodo@city.handa.lg.jp

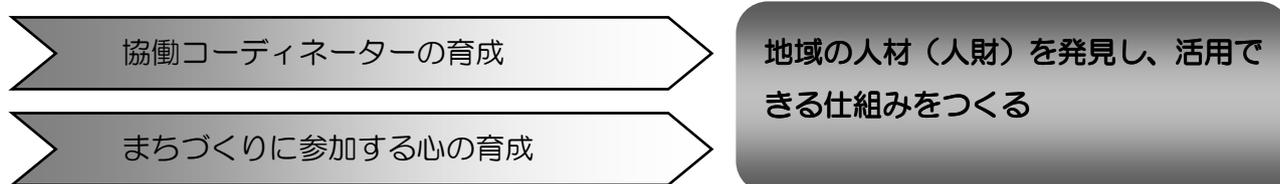
② 人材（人財）の発見と育成

市民活動団体などの多くが直面している課題として、「役員の担い手がいない」「新たな会員の確保が難しい」「コーディネーター的な人材が不足している」といった声が聞かれます。

「自分のまちをよりよくしたい」と思っている人たちに、他の人たちと語り合いや交流を重ねながら行動に踏み出していく「出会いの場」を提供する必要があります。

そのために、市民を対象に、地域活動に関心をもってもらうための講座（出前講座、社会教育講座、ボランティア講座など）を活用し、人が集う場を設け、参加者の裾野を広げ、多様な人材の参加を促すきっかけを作ります。

活動の中心となる人を対象に、多様な市民の参加や交流を促進するコーディネーターとして、育てていきます。



（１）組織のつながりを促進するコーディネーターを育てます。

- ① 各まちづくり主体（地域コミュニティ団体、市民活動団体、事業者など）において、意見を調整する力、解決策を提案する力を育む機会をつくります。

（例：まちづくりコーディネーター養成講座の開講）

- ② 地域全体の課題やその解決策、地域まちづくり計画作成など、地域住民が参加して作成していくための手法や、情報提供などのサポートを行います。

（例：地域まちづくり計画の支援）

- ③ 中間支援組織は、市民活動に関する情報提供、各種講座の開催、NPO法人化支援、人材育成講座や交流会などの市民活動を支援していくための活動団体です。市民活動団体などの中から中間支援組織を育てます。

（例：中間支援組織の育成）

（２）まちづくりに参加する心を育みます。

気軽な世間話を通じて、さまざまな世代の人が知り合い、親睦を深めるきっかけを作り、隣人を思いやり、お互いの考えを認め合い、地域に貢献する心を育てていきます。

（例：人が集う場（井戸端会議）の開設）

～それぞれに期待される役割～

- **市民** まちづくりは、一人ひとりの市民が「自分ごと」として地域の課題をとらえ、ご近所など身近な人と意見交換することから始まります。「住みよいまちを作る」という意識をもって、地域で声をかけあい、顔見知りをつくると、できることから行動しましょう。
- **地域コミュニティ団体** さまざまな世代の住民が参加しやすくなる方法や、楽しく参加できる工夫（井戸端会議など）をしましょう。また、防犯・福祉・環境問題などについて、地域で話し合い、解決策を考える機会をつくりながら、コミュニティリーダーを育てましょう。
- **市民活動団体** 市民活動への理解と参加を広げるために、地域コミュニティ団体や事業所などとも協力し、団体交流を行いながら、コーディネーターを育てましょう。
- **事業者** 従業員が地域の活動に参加できるような環境整備に努めましょう。特に、地域コミュニティ団体などと協力して活動できるように、企業内にもコーディネーターを育てましょう。
- **行政** 地域の課題解決に向けて、意見を調整する力、解決策を提案する力を育む機会（まちづくりコーディネーター養成講座）をつくります。また、行政職員が積極的に地域へ出かけ、地域住民と話し合うことで、地域活動への関心を持つことのできる職員としての意識を高めていきます。

先進事例

井戸端会議（大阪府豊中市の取り組み）

豊中市では、気軽に話せる交流の場として、地域の人々のつながりのきっかけとなる井戸端会議の紹介・体験と、地域コミュニティを活性化するヒントについての出前講座を開設しています。

出前講座

のご案内

豊中市では、みなさんの今後の地域活動のヒントにさせていただくための講座を、みなさんの要望に応じて職員が出向き、随時実施しています。



楽しいご近所付き合いのために

～井戸端会議(ラウンドテーブル)体験～

気軽に楽しく話せる交流の場(ラウンドテーブル)を体験してみませんか? この講座では、地域の人々のつながり(地域コミュニティ)のきっかけとなるラウンドテーブルの紹介・体験と、地域コミュニティを活性化するヒントについてお話しします。



系保荘自治会では、定期的にラウンドテーブルが開催されています。

地域コミュニティをもっと元気にするために

～他の地域はどんな活動をしているの?～

みなさんの地域をより住みよいまちにいくために、他の地域で行われているいろいろな活動の紹介や、地域の人々のつながり(地域コミュニティ)を活性化するヒントについてお話しします。



ロイヤルコート豊中市自治会の児童ラジオ体操には、多くの子どもたちが参加しています。

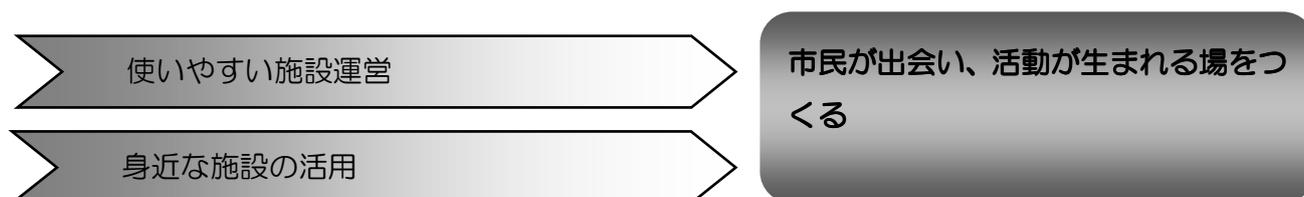
③ 活動・交流する場の確保

市内には市民が利用できるさまざまな施設があります。

活動する場は、個別の団体が会議や作業で活用する「空間」という機能に加えて、そこに集まっている市民や団体との「交流の場」としての機能もあります。

地域にある公の施設を地域コミュニティ団体に、もっと有効に活用してもらえるようにします。

また、市民活動の拠点、情報収集・情報提供、交流・ネットワークづくりなどの機能を持つ、市民活動の拠点施設について検討します。



(1) 使いやすい施設、愛着の持てる施設にします。

① 地域コミュニティ活動拠点施設として、公の施設の有効活用を図り、計画的に拠点施設を整備します。

(例：地域コミュニティの活動拠点整備)

② 情報収集・情報提供、交流・ネットワークづくりなどの機能を持つ市民活動の拠点施設について検討します。

(例：市民活動拠点施設の検討)

(2) 地域の身近な施設の場を活用します。

商店街の空き家や空き店舗、学校の余裕教室などの施設について、まちづくり活動における有効活用を図ります。

(例：空き家・空き店舗の活用、学校余裕教室の活用)

～それぞれに期待される役割～

- **市民** 地域の拠点には、いろいろなまちづくり活動をしている人に出会い、自分の目で活動を見ることができるチャンスがあります。気軽に訪ねてみましょう。
- **地域コミュニティ団体** 地域コミュニティ活動を行っていくため、地域にある公の施設を有効に活用し、その地域の特色にあった柔軟な運営について、検討しましょう。
- **市民活動団体** さまざまな人が集まる市民活動団体としての特性を活かし、施設で行われるイベント情報を積極的に発信し、地域とのつながりを広げていきましょう。
- **事業者** 民間所有の施設も地域にとって貴重な場所です。地域活動への開放を積極的に進めましょう。
- **行政** 地域コミュニティの活動拠点（地域コミュニティの活動拠点整備）は、公の施設の有効活用を図ります。市民活動の拠点施設（市民活動拠点施設の検討）は、情報収集・情報提供、交流・ネットワークづくりの機能をもつ施設になるよう、市民活動団体などと考えていきます。

先進事例

公の施設の有効活用（知多市南粕谷コミュニティの取り組み）

知多市南粕谷コミュニティでは、学校の用務員室を改修し、コミュニティルームとして、パソコン・コピー機・印刷機を設置し、活用しています。

また、学校の余裕教室を地域住民の生涯学習活動の場として活用したり、学校図書館の管理運営などを行っています。



コミュニティルーム

市民活動の拠点施設（刈谷市民ボランティア活動センターの取り組み）

刈谷市民ボランティア活動センターでは、市民ボランティア活動に関する様々な情報の提供、活動団体相互の交流と連携の促進や市民ボランティア活動団体の自立化を支援しています。センターは、特定非営利活動法人が市の委託を受けて運営しています。



刈谷市民ボランティア活動センター